

交流と連携を育み、 新しい文化を創造する都市

～新たな文化の発信拠点をめざして～

【新市将来構想案・概要版】



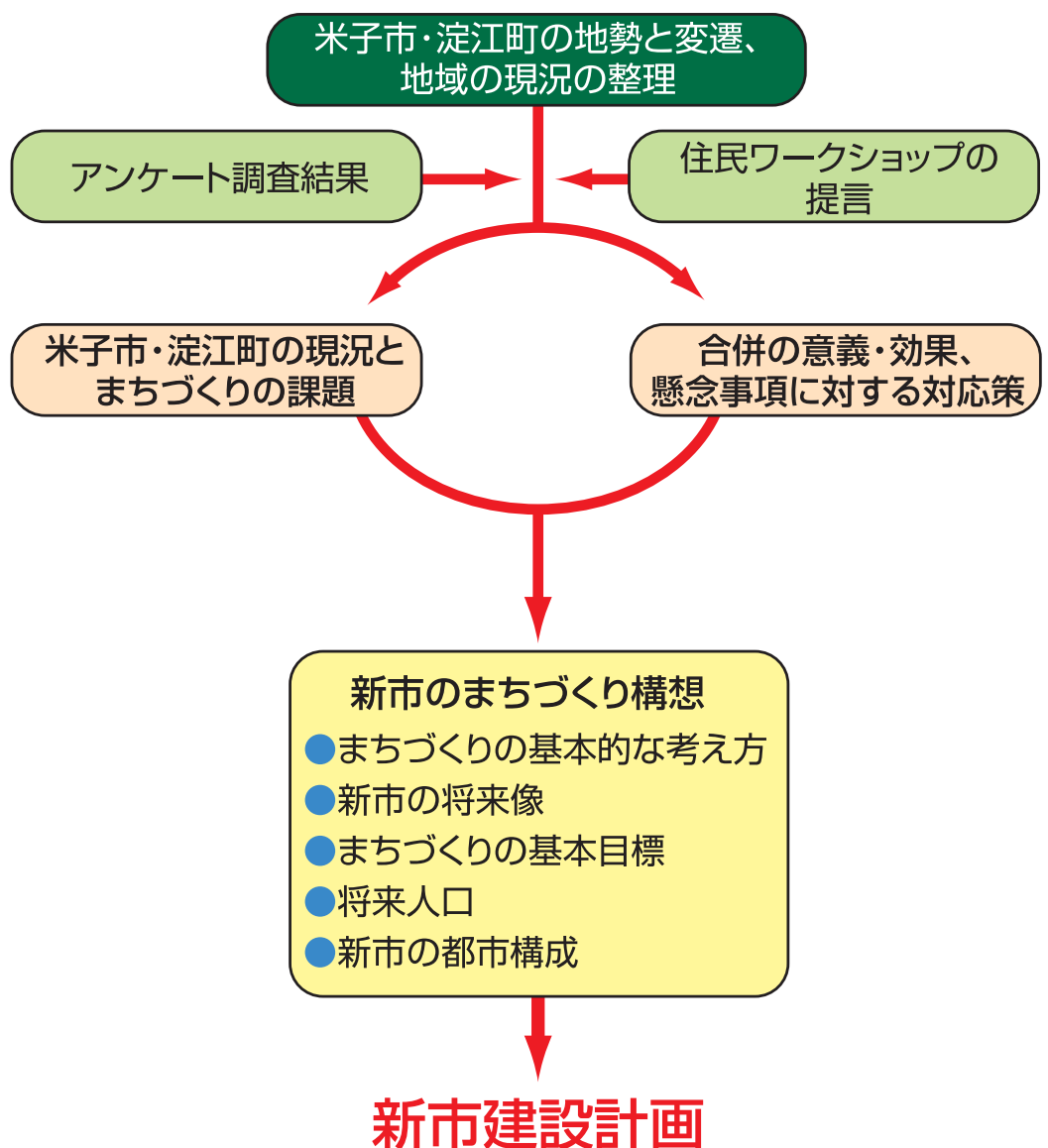
平成15年12月
米子市・淀江町合併協議会

新市将来構想策定の目的と位置づけ

本構想は、米子市、淀江町の住民に対して、将来のビジョン¹を示す基本的な計画である「新市建設計画」のグランドデザイン²として位置づけられ、環日本海時代³への対応を踏まえ、将来的には20万人以上の都市の実現に向けた長期的な観点も視野に入れ策定します。

策定にあたっては、米子市・淀江町における社会経済情勢や住民意向、まちづくりの課題などを踏まえ、活力ある県西部圏域の拠点都市として、合併後の新市のまちづくりのあり方などを示し、合併への意識・理解を高めることを目的としています。

新市将来構想策定の進め方



1.ビジョン[vision]
将来の見通し。構想。未来像。

2.グランドデザイン
[grand design]
大規模な事業などの、全体にわたる壮大な計画・構想。

3.環日本海時代
新しい国際秩序が形成されつつある中で、将来の発展の可能性を秘めたアジアが注目を集め、環日本海経済圏が議論され、日本、韓国、中国、ロシア、モンゴルなど環日本海諸国の役割が高まり、新しい時代の到来が期待されている。特に日本海沿岸域は大きな期待を寄せられている。

※このページは、総務省による一般的な内容を記載しました。

合併の意義

地方分権の推進
高齢化への対応
多様化する住民ニーズへの対応
生活圏の広域化への対応
効率性の向上



合併の効果

1.住民の利便性の向上

- (1) 窓口サービスの拡充 (2) 生活の実態に即した小中学校区の設定
- (3) 公共施設(図書館、スポーツ施設、保健福祉センター等)の利便性向上

2.サービスの高度化・多様化

- (1) 多様で個性的な行政施策の推進 (2) 専門職員の充実 (3) 高サービス、低負担
- (4) 行財政基盤の強化による行政サービスの充実・安定
- (5) 公共的団体の統合・新設による多様で広域的な事業展開 (6) 行政・職員のレベルアップ

3.重点的な投資による基盤整備の推進

4.広域的観点に立ったまちづくりと施策展開

- (1) 広域的な都市基盤の整備 (2) 広域的な課題への対応

5.行財政の効率化

- (1) 管理部門の効率化 (2) 行政経費の節減 (3) 公共施設の効率的配置

6.地域のイメージアップと総合的な活力の強化

合併に対する懸念事項と対応策

合併により、役所が遠くなり、不便になるのではないか

合併後も、市役所及び町役場は新市の支所や出張所として活用することも可能です。他の市町に通勤・通学している人は、通勤・通学地でも窓口サービスを受けることができ、利便性が高まります。

合併により地域格差が生じるのではないか

合併協議会において、合併後の新市の将来像を定めた新市建設計画を策定します。また、各地域の意見・要望等を行政に十分に反映させることができるよう「地域審議会」という制度を導入することも可能です。公共施設の配置にあたっては、各地域の資源や特徴、個性を踏まえた適切かつ計画的な配置に努めます。

合併により地域の連帯感やコミュニティが弱体化するのではないか

旧市町やコミュニティ(自治会活動、公民館活動など)単位の重要な行事や活動の存続に配慮します。

合併により、サービスが低下するのではないか

住民間の公平を保ちながら、住民の不利益とならないことを基本として、財政状況にも配慮しつつ、適正な行政サービスの水準を確保します。支所や出張所の効果的な活用を図り、きめ細かな行政サービスの提供に務めます。

まちづくりの課題

社会背景、両市町の地域の現況並びに住民アンケート調査及び住民参加のワークショップの開催を通じて得られた意見や提言を踏まえ、まちづくりの課題を次のように設定しました。



社会背景

1. 住民の日常生活圏の拡大
2. 広域的行政課題の増大
3. 実行段階に入った地方分権時代
4. 人口の減少、少子・高齢化の進行
5. 国及び地方の財政状況の著しい悪化
6. 高度情報化社会の進展
7. 環境問題の深刻化
8. 国際化の進展
9. 住民参画によるまちづくりの進展

現況分析

- | | |
|-------|-------------------|
| 自然 | ・自然に恵まれた都市、歴史のまち |
| 地勢 | ・遺跡のまち |
| 道路・交通 | ・山陰の交通の要衝 |
| 人口 | ・若年減少、高齢化、西部圏域の中心 |
| 産業 | ・山陰の産業の中心 |
| | ・農業は特産品、漁業は養殖化 |
| | ・工業は減少傾向 |
| | ・商業は減少、観光は増加 |
| | ・第3次産業は増加 |
| 施設 | ・施設の充実再編 |

まちづくりの課題

1. 拠点都市としての発展
2. 生活基盤の充実
3. 環境と共生したまちづくり
4. 健康と福祉のまちづくり
5. 教育環境の充実したまちづくり
6. 歴史・文化を活かしたまちづくり
7. 産業の活性化と新たな展開
8. 地方分権時代への対応

アンケート結果

- 日常生活に対する不満、やや不満
1. 働く場、雇用の機会
 2. 交通機関の利便
 3. 道路の整備
 4. 公園・緑地等の整備
 5. 下水、排水の処理
- 将来像
1. 福祉のまち
 2. 安全なまち
 3. 自然を生かしたまち
 4. にぎわいのあるまち (高校生アンケート)

ワークショップの意見

- 生活環境グループ 健康福祉グループ
産業グループ 都市基盤グループ
教育文化グループ
1. 高齢者が暮らしやすく、かつ若い人材も呼び寄せる魅力あるまちをつくる
 2. 子育て・高齢者・障害者を地域で支える新しいコミュニティをつくる
 3. 地域の特性を重視したまちづくりを、市民参画・官民協働で行う